

総務常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和7年11月12日（水）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和7年11月12日（水）午前11時32分
- 3 会議場所 委員会室
- 4 出席委員
3番 田村 勝君 4番 中田 浩二君 6番 安藤 利博君
12番 大口 浩志君 16番 松田 勲君 17番 実盛 祥五君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
総合政策部長 幸坂 諭志君 総務部長 戸川 邦彦君
財務部長 金島 正樹君 総合政策部参与兼赤坂支所長 小坂 憲広君
総合政策部参与兼熊山支所長 稻生真由美君 総合政策部参与兼吉井支所長 中務 浩行君
消防長 檜原 秀幸君 総合政策部参与 岡本 和典君
秘書広報課長 黒田 未来君 総務課長 花谷 晋一君
くらし安全課長 正盛 充敏君 財政課長 影山 茂樹君
管財課長 行正 敦君 税務課長 田淵 忠則君
消防総務課長 金光 正浩君 政策推進課主幹 直原 真弓君
- 7 事務局職員出席者
副参事 青木 智彦君 主任 平尾 和也君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（安藤利博君） ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

○消防長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 檜原消防長。

○消防長（檜原秀幸君） 総務常任委員会の協議の前に御報告とおわびを申し上げたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

○委員長（安藤利博君） お願いいたします。

○消防長（檜原秀幸君） 令和7年10月22日に報道がございました消防職員の逮捕についてでございます。

同日10時3分、不同意性交等の罪で逮捕されましたが、20日間の勾留を経て不起訴となりました。昨日、釈放になっております。本人からの詳細な事実確認ができていないため不起訴の内容はお伝えできませんが、再度聞き取りを行った上で厳正で適正な対処を行いたいと考えております。

消防職員に対しましては、服務規律の確保について徹底し、市民の皆様の信頼回復に努めてまいりたいと思っております。このたびは誠に申し訳ございませんでした。

以上でございます。

○委員長（安藤利博君） 委員から何かお聞きしたいことがあれば。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） 念のためですけど、不起訴の内容については、嫌疑なし、嫌疑不十分、起訴猶予、3対応あると思うんですけど、警察からはまだ内容はお聞きされてませんか。

○消防長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 檜原消防長。

○消防長（檜原秀幸君） まだその報告はございません。

○委員長（安藤利博君） 不起訴ということですから無罪ですので、その辺は職員の今後のことも大切なので、職員の名誉もありますんで、その辺適切に処理をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○消防長（檜原秀幸君） ありがとうございます。

○委員長（安藤利博君） それでは、これから協議事項に入ります。

本日の進め方ですが、まず事業の進捗状況について一括説明の後、部ごとに質疑を受けたいと思います。その次に、その他についても同様にしたいと思います。そのように進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） それでは、協議事項1番目、事業の進捗状況について、総合政策部から順に説明をお願いいたします。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 幸坂部長。

○総合政策部長（幸坂諭志君） それでは、総合政策部の資料2ページをお願いいたします。

まず、(1)赤磐市過疎地域持続的発展計画の策定についてでございます。

本計画につきましては、先月の委員会で概要について、また議会全員協議会において素案について説明をさせていただいたところです。素案の内容につきまして、本日の委員会、または今月19日の議会全員協議会にて御意見をいただけたらと存じます。

なお、今後の予定といたしましては、12月4日からパブリックコメントを実施しまして、来年1月の庁内本部会議を経て、2月の総務常任委員会においてパブリックコメントの結果報告、素案を修正した計画案を御説明の上、議案を上程させていただく予定にしております。

続きまして、(2)赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証についてでございます。

令和7年10月15日に開催したあかいわ創生会議において、本戦略の最終年度の推進状況及び成果の検証、評価を行いました。創生総合戦略とは、出生率の低下による人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の一極集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して将来にわたって活力ある社会を維持することを目的にしております。

資料3ページをお願いいたします。

第2期の戦略では、3つの基本目標にそれぞれ戦略プログラムを位置づけ、こちら1番の新婚世帯家賃助成交付件数から、29個の重要業績評価指標KPIを設定しておりました。この表は、それぞれのKPIについて各年度の実績値、終期となる令和6年度末での進捗状況、令和6年度の取組状況、5年間の検証、そして9月議会で議決をいただきました第3次総合戦略にそれぞれのKPIをどう反映しているかといったところをまとめた表になります。

戦略の主な目的である人口に関するものや進捗が芳しくなかったものを中心に幾つか説明をさせていただきます。

まず、基本目標1、安心して子育てができ、次代を担うひとが育つまちを創るでは、1番、新婚世帯家賃助成交付数については目標30件でしたが、令和6年度の実績は17件と目標に届きませんでした。こちらは、人口増にも寄与する事業ですので引き続き制度の周知を行うとともに、SNSを活用するなど効果的な周知方法を検討してまいります。

2番、20歳代から30歳代の転入者数について実績値は528人となり、目標値の790人を大きく下回っています。総務省の報告によりますと、転出者1,145人のうち20代から30代の転出者数は632人と半数を占めており、社会減の大きな要因になっております。今後は、さらに働く場所や子育て環境の整備といった施策の充実を図る必要があると考えております。

表の一番下、6番、合計特殊出生率について実績値は1.49となり、目標値の1.61に比べ下回っております。全国や県でも出生率は低下傾向でありまして、10代後半から40代の女性人口が

減少していることから、出生数自体の減少も加速していると言えます。出生率を上げるための特効薬を見つけることは難しいところですが、効果的な少子化施策を検討していく必要があると考えております。

4 ページは飛ばしまして、5 ページをお願いいたします。

基本目標Ⅱ、経済・産業に活力があり、ひとが集まるまちを創るでございます。

14番の新規企業立地件数と15番の新規立地企業の雇用創出数については、この計画の5年間で新型コロナウイルスの流行期と重なってしまったといったこともあり低い実績値となっております。ただし、今年度から大松精機とテイカが操業を開始していることから、今後一定の雇用創出が見込まれております。

表の一番下、18番の観光入込客数について、令和6年度の実績値は29万7,437人と目標値の47万人に大きく届きませんでした。サッポロビール岡山ワイナリーの工場見学終了や猛暑の影響かと考えられますが、ドイツの森における観光客の減少が大きく影響しております。こちら市内の周遊観光ルートの磨き上げや体験型の観光プログラムといったものを推進してまいりたいと考えております。

6 ページをお願いいたします。

基本目標Ⅲ、多彩な人材の活躍により、地域が活性化しているまちを創るです。

23番の転入者数について令和6年度の実績値は1,052人となり、目標の1,300人に届いておりません。現在でも、移住コンシェルジュを配置し相談会や交流会などを行っておりますが、より効果的なPR手法や支援施策を検討してまいります。

次の7ページまでが29個のKPIの進捗状況でございます。

全体として達成できているものが8項目、取組が順調に進んでいるものが6項目、改善が必要なものが15項目となっております。

次の8ページにつきましては、3つの基本目標全体のKPIということで、重複するものもございりますが、結果として改善、修正を行う必要があるものが多くなっております。

先ほど説明させていただいたとおり、これらの指標については3次戦略についても同じ内容で指標とするものや見直しを行っているものがございます。この2次戦略の効果検証を踏まえて、3次戦略のKPI達成に向けて効果的な事業を検討し実施してまいります。

政策推進課の説明は以上です。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） それでは、資料9ページを御覧ください。

旧熊山支所等の跡地利用についてということでございます。

旧熊山支所と公民館の跡地利用については、利用者の声を聞いて進めてほしいという意見もありました。区長会の中からプロジェクトチームをつくって検討していきたいという声もあり

まして、9月25日に臨時の区長会を開催し、プロジェクトチームの件が提案され承認されました。名称は、旧熊山支所庁舎及び旧熊山公民館跡地利用を考える会とし、メンバーは区長会の役員や公民館利用者、小学校のPTAなど各団体にも声をかけ17名でスタートすることになっております。会の目的は、跡地利用について地域住民の意見を集約し市へ要望を出すということにしております。第1回の会議を11月21日金曜日に開催することにしております。

今後の会の進捗については、この委員会でも報告させていただきたいと思っております。

また、豊田小学校の3年生の地域学習で、11月26日水曜日13時30分頃から熊山支所解体工事現場の見学会を開催いたしますので、お知らせいたします。

以上で説明を終わります。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） それでは、総務部資料2ページを御覧いただければと思います。

総務課から(1)窓口対応及び電話対応件数調査の結果について御報告します。

本調査は、職員の働き方改革と時間確保による市民サービス向上に向けた取組の推進を図るため市役所の開庁時間短縮を検討するに当たり、開庁時間短縮が市民の皆様や事業者の皆様にもどのような影響を及ぼすかについて把握するために実施したものでございます。

調査の実施に当たりましては、期間は令和7年9月29日から10月3日の1週間とさせていただきまして、内容は時間帯による窓口対応件数と電話対応件数、対象は全部署、全施設といたしました。

ただし、条例や規則で開館時間や利用時間を定めている施設は除くこととして調査をさせていただいたところでございます。要するに、本庁、支所、出張所、教育委員会事務局など、事務所について取りまとめたものとなります。

調査の結果内容について説明させていただきます。

調査時間帯を①から⑩に分けまして、窓口対応と電話対応の件数をカウントし割合を算出させていただきます。窓口対応、電話対応ともに②から④までの午前中の対応割合が比較的高く、①8時半から9時までと⑩17時から17時15分の対応割合が低い傾向となっております。⑨16時から17時の電話対応割合が少しデータの的に高くなっておるのが、市民の皆様からの相談や問合せもあるんですが、特に多くなった理由としましては、介護施設などの利用者が帰るタイミング、デイサービスセンターとか、そういうところは業務が終わった後に市役所へ問合せをしてこられることがあったり、また小中学校が放課後に入ったタイミングで学校の先生が教育委員会に問合せ、報告をされる件数が非常に高い割合でその時間帯にかかってくるものがあつたと分析しております。ですので、全体的に見ると右肩へ下がっていく結果にはなっておるんですが、正直に集計しますとこのような状況になるということで認識していただければと思います。

今後は、本調査結果や他市町の事例を参考にしまして、市役所の開庁時間について検討してまいりたいと考えております。

総務課からは以上となります。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） それでは、くらし安全課から御報告させていただきます。総務部資料3ページを御覧ください。

(2)岡山大学からの実証実験の協力依頼について御報告をさせていただきます。

岡山大学環境生命自然科学・交通まちづくり研究室より、技術開発支援事業補助金を受け、歩行者事故の多くを占める道路横断中の事故をテーマとした研究データの収集を目的とした交通安全対策効果の検証をしたいとの御依頼を受けております。

実証実験の内容につきましては、横断歩道における対策といたしまして、赤磐市上市地内の山陽小学校と高陽中学校の間にある横断歩道に今年12月から来年1月の間で平日かつ雨天でない5日間程度を予定し、区画線を50センチメートルずつせり出す検証を行いたいとのことです。

岡山大学では、過去のVRシミュレーションを用いた研究で、横断歩道付近の縁石をせり出すことにより、より離れた地点から自動車に減速を開始させる効果があることや横断歩行者を前に立たせる効果があることなどが分かっており、本調査は実際の空間での横断歩道部の区画線をせり出したときにVRシミュレーションと同様の結果が得られるかを検証することが目的であるとお聞きしております。区画線を50センチメートルずつせり出した施工につきまして、横断歩道において横断歩行者の待機場所を特定するとともに、スピードガンにより付近の走行する車両の速度計測を行うものとお聞きしております。

また、横断歩道のない地点における対策として、カラー舗装や区画線のせり出しなどの複数デザインをVRシミュレーションを用いて道路周辺の地域住民に協力いただきながら、各デザインを地域住民と共に実際の施工にふさわしいデザインを検討していく予定と聞いております。

現在、岡山大学より検証地区として桜が丘東地区を希望されているため、桜が丘東連合町内会の方々とは事前に少し調整させていただき、内諾は受けさせていただいております。

以上、2点の実証実験について協力していきたいと考えておりますので、御報告させていただきます。

続きまして、総務部資料4ページを御覧ください。

先般、高知県大月町から大規模災害時における相互支援の要請がありました。こちらのことから覚書の締結に向けて準備を行っております。

高知県大月町は、昭和63年8月8日に旧吉井町が締結した友好親善姉妹都市提携協定に基づ

き、お互いを尊び合い、相互の協力を基に住民福祉の向上を期するため姉妹都市として友好関係を築いている経緯があります。新たな相互支援の協力の要請があったことから、今後調整が出来次第、覚書の締結を行う予定としております。

相互支援の内容につきましては、資料に記載しておりますので御確認をよろしく願いいたします。

以上で総務部の説明を終わります。

○管財課長（行正 敦君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 行正課長。

○管財課長（行正 敦君） それでは、財務部資料の2ページをお開きください。

管財課から御説明をさせていただきます。

まず、(1)赤磐市役所本庁舎等整備事業についてでございます。

現在、大集会室の音響、客席設置の工事は完成しております。その後、公民館の内装工事及び空調機器の修繕を現在進めているところでございます。

また、執務室の移転でございますが、教育委員会、中央公民館につきまして令和7年12月13日、14日の両日を考えております。建設事業部、産業振興部につきましては、令和8年2月21日、22日、23日の3日間での作業を計画しております。

続きまして、(2)いきいき交流センター整備事業についてでございます。

こちらにつきましては、令和8年2月には業者決定ができるよう、現在、設計図書等の作成を急いでいるところでございます。

また、適正工期を確保するため、繰越しをして事業を進めていく予定にしております。

今後も、順次情報発信、周知等を十分行いながらスムーズな事業進行に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

管財課からは以上です。

○税務課長（田淵忠則君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 田淵課長。

○税務課長（田淵忠則君） それでは、税務課から定額減税不足給付金事業について御報告させていただきます。

財務部資料2ページの下段をお願いします。

定額減税不足給付金事業につきまして、10月31日で申請受付を終了いたしました。10月31日時点で給付が確定している人数、金額を記載しております。現在、返送された種類の確認作業を行っています。11月中に給付を終える予定です。

財務部からは以上です。

○委員長（安藤利博君） 事業の進捗状況について説明が終わりました。

ただいまの説明のうち総合政策部への質疑はありませんでしょうか。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 先ほど熊山支所等の跡地利用についての御説明がございましたけど、地域住民の方々で今後のまちづくりという視点も含めて御検討いただくことに対してはやぶさかではございませんが、御存じのとおり、赤坂、吉井、第2弾、第3弾が控えておりますので、前例になってはいろんな手かせ足かせになるのかなと、今後ということも鑑みて慎重にやっていたきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 利用者の声を聞いて進めていくという説明をこちらもしております、その中で区長会から今後について考えていきたいという声がありましたのでこういう形を取らせていただいておりますが、進めていく中でどういう形になるか分かりませんが、市の財政状況というのも分かっておりますので、その話の中でそういうことはこちらで説明はさせていただきたいとは思っております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 1点、念押しをしておけば、以前執行部から御提案がありました当分は駐車場、私は悪い話ではないのかなと、その当時感じております。

例えば消防署、給食センター、熊山町が土地を持っていたからこそスピード感を持って対応ができた。市民病院のこともそうでしょうし、診療所のこともそうでしょう、福祉施設のこともそうでしょうという意味では、いい場所にある土地という部分でそういうことも今後どういう行政需要が出てくるか分かりませんので、その辺も鑑みてお願いをしたいというのが先ほどの慎重にお願いしたいという言葉の中に入っとることだけ申し添えておきます。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 今のお言葉を受け止めて今後臨んでいきたいと思えます。

熊山支所のエリアでは、駐車場がないというのは日々運営していく中で感じているところでありますので、駐車場の確保というのは最優先でしていきたいと思っております。

○委員長（安藤利博君） ほかにありませんでしょうか。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 私もあそこは本当に駐車場がいいなと思うんですが、取りあえず今解体工事をしてますけど、これはいつ頃終わる予定で、その後フラットになると思うんですが、駐車場が使える状態になるのは大体いつ頃なのかを教えていただければと。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 工事は工期末が一応3月10日となっておりますので、それを目指してフラットにしていくよう準備を整え工事を進めております。

以上です。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） フラットというのは、どういう状態にする予定になっているのでしょうか。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 一応駐車場という形で考えております。

○副委員長（松田 勲君） アスファルトか何か。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 今アスファルトを考えておりますが、このプロジェクトチームの進め方もあるんですけど、一応駐車場では考えております。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 駐車場ですけど、いろいろあると思うんですけど、例えば砂利を取りあえず使えるように敷くか、アスファルトにするかとあると思うんですけど、今の予定ではどの程度検討されとんか。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 設計上はアスファルトになっております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 田村委員。

○委員（田村 勝君） 大口委員がおっしゃることももっともなんですけど、プロジェクトチームができたという経緯もやはり尊重するべきだと思うんで、そこを考えて、内容は見てから慎重にまた協議すればいいと思ってますし、今後赤坂とか吉井がもし同じようになったときに足かせではなくいい方向で持っていけたらなと思ってますし、このプロジェクトチームを見守っていきたいと思っているんで、そこはこのプロジェクトチームのしっかり考えた後でまた考えていったらいいなと思っています。

ということで、プロジェクトチームのことをされる熊山支所の方に、さっき言ったように、いい方向にさせていただけるように、このプロジェクトチームを熊山支所で見守ってあげてくださいというか、検討してください。

○委員長（安藤利博君） 田村委員のちょっと意が十分尽くされていませんけど、もし稲生支所長のほうでフォローしていただくことができれば一言お願いいたします。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 稲生支所長。

○総合政策部参与兼熊山支所長（稲生真由美君） プロジェクトチームの立ち上げも決まっておりますので、その中の話等は一緒になって考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） よろしいでしょうか。

○委員（田村 勝君） はい。

○委員長（安藤利博君） ほかに総合政策部のほうよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） それでは、総務部への質疑はございませんでしょうか。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 大規模災害発生時の相互支援の覚書について、これはこれで進めていただければいいと思うんですけど、関連は今ここでやってもいいですか、それともその他のその他のほうがよければそのように取り計らって……。

○委員長（安藤利博君） 関連というのはどのあたりまで。

○委員（大口浩志君） 大規模災害という発生時における相互支援ということに対しての観点です。

○委員長（安藤利博君） お願いいたします。

○委員（大口浩志君） 御記憶がある方もいらっしゃると思いますが、初めて聞かれる方もいらっしゃると思いますので、たしかもう何年も前に協定が結ばれて最近そういう単語を聞いてなかったのが、これが出たからお聞きをします。

島根県安来市、原発事故における避難先が赤磐市という取決めができておりますが、現状は決定以来どのような経過をたどってきているのかと、現状はどのようなになっているかが御報告いただけるようでしたらお願いします。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 広域避難に関する協定ということであります。

こちらの名称につきましては、大規模災害の中でも特定された安来市における事業につきましては、原子力災害時等における広域避難に関する協定というものが岡山県と島根県の間で結ばれております。この協定におきまして、避難者の受入れを岡山県内の各地域に避難先を要請し、決定し、避難のおそれのある場合、避難先市町村と連携して避難者の受入れを行うもの

とするという岡山県と島根県の協定に基づきまして、現在赤磐市では、先ほど大口委員がおっしゃられるように、安来市が受入れの対象市町村となっております。

全体像を少し御説明しますと、岡山県と島根県の間で松江市と安来市を岡山県が受け入れるメンバーとなっております。松江市につきましては、人口6万4,000人に対して岡山市、倉敷市、玉野市、笠岡市、井原市などの13市町村で分配して受ける。安来市につきましては、津山市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、美作市、和気町、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町の14市町村で総人口3万4,000人を対象に受入れ計画を行っております。

赤磐市では、現在4,300人前後の受入れを要請されております。こちらについては、公共施設等々、一時避難場所として県に報告しているというのが現状であります。

以上であります。

○委員長（安藤利博君） 大口委員、よろしいでしょうか。

○委員（大口浩志君） はい。

○委員長（安藤利博君） ほかにございませんか。

1個いいですかね。

〔委員長交代〕

○副委員長（松田 勲君） 安藤委員長。

○委員長（安藤利博君） 暮らし安全課の岡山大学からの歩行者についての実証実験ですけど、非常にありがたいことなんですけど、これは横断歩道のせり出しのマークを付け替えるということでしょうけど、1つお願いしたいのが、実は連合町内会からも毎年多分要望が上がっているんですけど、桜が丘東1丁目から西1丁目の、言ってみれば県道のバイパスのような状態になっている道路、これのスピードが何とかならないかという要望が毎年出されていると思うんですけど、実はたまたま昨日NHKで津山市が、これは岡山県じゃなくて国交省と言われてたんですけど、ハンブを小学校の横断歩道のところに置く実証実験を行うという報道をされていまして。

こういったいろいろ標識等はそれなりの効果はあるんでしょうけど、スピードを飛ばす方はこういった標識だけじゃなしに物理的にスピードを抑えるような仕組みが必要かと思って、そのハンブが一番有効じゃないかということで津山市でも国交省と実証実験に取り組んでいるということなんでしょう。

今回は、岡山大学の中には入ってませんが、ぜひいつかそのハンブの実証実験、騒音が出るとかというマイナス面もあるようなんですけど、それが実際のどのくらいなのか、その騒音と、それからスピードダウンによる安全面との比較考慮、これをいつかやる必要があるかと思うんですけど、その辺御検討はいかがでしょうか。

○副委員長（松田 勲君） 答弁を求めます。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 安藤委員長おっしゃられるとおり、交通安全対策の検証、それから実証実験、いろんなところで検証を凶っております。今回の岡山大学からの検証、実証実験もそうですし、今お話しがあったハンプの通学路におけるところもそうだと思います。なかなか一筋縄でいかないというか、地域住民との協力が要るようなものについては、そういった実証実験の検証結果などを集計し様々な効果対策を検証するための効果検証実験という理解とっております。こういった検証結果がまとまり効果があるということであれば、赤磐市も検討する必要があると思いますし、また道路管理者、それから地域住民との協力も必要となってきますことから、今後そういったものを注視しながら検討する必要があると思いますので、よろしく願いいたします。

○副委員長（松田 勲君） よろしいか。

○委員長（安藤利博君） はい。

〔委員長交代〕

○委員長（安藤利博君） 総務部への質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） 次に、財務部への質疑はございませんか。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 先ほど引越し予定を示していただきましたけど、浪花節のような間いかけになっちゃうんですけど、現在、旧赤坂町時代よりは多い人数の職員が来ていただいております。活気が出たなという声もよく耳にしますし、これだけ来年の2月にごそっと抜けると、一遍にそれこそ火が消えたということになりかねないと思うんですけど、現状はまだ多分決まってないと思いますけど、せつかくいろんなお金をかけてエアコンとか、明かりとか、いろんなことでお金が入ったと思いますけども、今後はもしあれば結構なんですけど何か利用予定等は、引き合いも含めてあるんでしたらちょっと教えていただけたらと思います。

○管財課長（行正 敦君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 行正課長。

○管財課長（行正 敦君） 今回御説明の中で、建設事業部、産業振興部、現在仮移転で赤坂支所に移転しております。2階と1階の一部を利用して職員がいますけども、これが今後東庁舎に帰ってくる計画でございます。

その後、たちまちは赤坂支所へ何をどうというのはちょっとまだ計画はできておりません。今後、事務の進捗というか、利用状況を見ながら対応できることがあれば考えていこうかなとは思っています。

以上です。

○委員長（安藤利博君） ほかにございませんか。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） この庁舎じゃないんですけど、この工事が始まって職員の駐車場をサンデーのずっと向こうに借りられていますよね。あれはずっと借りる予定ですか、今後。

○管財課長（行正 敦君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 行正課長。

○管財課長（行正 敦君） 今サンデーの向こう、高屋の駐車場を職員駐車場としてお借りをしておりますけども、これにつきましては今年度いっぱいをもって一旦お返しをするという計画でございます。一応工事の区域の中で今まで職員の駐車場として利用していた部分が止められなかったというところもあってお借りをしてましたので、今後今の計画でいきますと、あそこを借りなくても一応職員の駐車場は確保できるという想定をしております。

以上です。

○副委員長（松田 勲君） 分かりました。

○委員長（安藤利博君） ほかに質疑はございませんか。

田村委員。

○委員（田村 勝君） 公民館で前に工事のときにもお聞きしたと思うんですけど、客席が設置されたということで、最終的に何席になったのか教えてください。

○管財課長（行正 敦君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 行正課長。

○管財課長（行正 敦君） 改修前が全体で252席、今回の改修後が全体で281席、29席、改修前よりは増えたという状況になっております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） ほかにございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） なければ、これで事業の進捗状況について終わります。

続いて、協議事項2番目、その他について、総合政策部から順番に説明をお願いいたします。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 幸坂部長。

○総合政策部長（幸坂諭志君） それでは、総合政策部資料の9ページをお願いいたします。

令和7年12月議会定例会提出予定議案について、一般会計補正予算として債務負担行為を3件追加する予定です。

内容といたしましては、広域路線バスの赤磐・和気線と赤磐・瀬戸線の運行委託料、そして

ふるさと納税各種手続等手数料でございます。

次に、歳入予算ですが、常備消防費に係る一般寄附金の増額として、企業版ふるさと納税寄附金62万2,000円です。この歳入につきましては、後ほど消防本部から説明する事業に充当する予定でございます。

続きまして、資料10ページをお願いいたします。

以前の委員会において説明させていただいたとおり、J R西日本では、駅の老朽化による維持管理コストや労働力確保の観点から利用者の少ない駅を対象に駅設備適正化を進めております。

このたびJ R熊山駅について、こちらの位置図のとおり、改修工事が予定されております。その内容としましては、現在の駅舎を撤去してサイズを縮小した待合室を新設する、そして現在3つある上屋は全て撤去する、そして跨線橋については必要な設備として強靱化工事を実施するとのことです。

資料11ページの下側を御覧ください。

8月にJ R西日本からこのお話をお聞きしました。9月の委員会で報告をさせていただいております。その後、熊山地域区長会や市の公共交通会議でも説明したところ、地元からの御意見としては、利用者の安全性や利便性の確保の観点から上屋を残してもらいたいとの声が強く、また高齢者の利用のためにエレベーターを設置してほしいとの声もありました。

また、ここには記載しておりませんが、先日岡山白陵中学・高等学校にもこの件を御説明したところ、特に上屋の存続については強い御要望を伺いました。

このような声を受けまして、11月17日に市長がJ R西日本岡山支社を訪問し、上屋の存続とエレベーターの設置について要望書をお渡しする予定にしております。

なお、要望書につきましては、市長に加えて市議会議長、熊山地域区長会会長、岡山白陵中学・高等学校長の連名にさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） それでは、総務部資料5ページを御覧いただければと思います。

総務課から令和7年12月議会定例会提出予定議案について御説明申し上げます。

条例3件、組合格約1件、補正予算ということで予定をさせていただいております。

まずは、(1)赤磐市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について説明をします。

物価の変動や選挙等の執行経費などを考慮いたしまして国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律が一部改正されたことに伴いまして、選挙立会人などの報酬の額を改正するものでございます。

改正は、主な内容に記載しておりますとおり、8つの区分に関してとなります。選挙長から開票立会人までの4件は、1回当たりの単価改正となります。

次に、投票所及び期日前投票所の投票管理者の2件につきましては、令和元年6月に公職選挙法施行令が一部改正されまして選挙の途中で交代可能ということになったため、単価とともに単位も1回から1時間ということで、時給制に変更しております。ちなみに、これまで本市では投票管理者が一日の途中で交代したことはございません。

次に、投票所及び期日前投票の投票立会人の時間当たりの単価改正となります。

施行日は、公布の日からとしております。よろしく申し上げます。

6ページを御覧ください。

(2)赤磐市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について御説明します。

この条例改正は、人事院勧告に基づきまして市の職員給料を国家公務員の給与制度に準拠するよう給料表及び各種手当を改正するものとなっております。

主な改正内容につきましては、1、給料表は、若年層の職員に重点を置きつつも昨年度とちよと違ひまして、全体的に給与月額を引き上げるものとなっております。

期末・勤勉手当につきましては、6ページの中段から8ページにわたって説明をさせていただいておりますが、簡単に申し上げますと、正職員の年額をそれぞれ0.025月分、期末・勤勉それぞれ引き上げて、年間総月額を4.6月分から4.65月分に、0.05月分を年間で引き上げるものとなっております。

再任用、特定任期付職員も年額0.05月分を引き上げるということとなっております。

8ページを御覧ください。

3、扶養手当は、国の基準に基づきまして改正するものとなっております。

配偶者の扶養手当の廃止、子供の扶養手当の引上げとなっております。

4、通勤手当の改正につきましては、支給額の改正と距離区分の追加を行うものです。

9ページを御覧いただきまして、宿日直手当です。

現在、職員にこの手当を支給している実績はありませんが、国の単価に合わせて改正するものとなっております。

施行日は、施行日の区分どおりとなっております。給料表は令和7年4月1日から遡及適用、期末・勤勉手当の改定は公布の日からとして、この12月分から適用させていただきます。

通勤手当の額の改定は、令和7年4月1日から遡及適用しまして、距離の区分改定は令和8年4月1日からの適用となります。

扶養手当の改定も、令和8年4月1日からとなるものでございます。

10ページを御覧ください。

次に、(3)赤磐市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例について御説明します。

国内外の経済社会情勢の変化に対応することなどを目的としまして国家公務員等の旅費に関

する法律が改正されて、国家公務員は令和7年4月1日から旅費の改正を行っております。

本市におきましても、同法の改正内容に基づきまして、職員などの自己負担を生じさせることもなく確実に実費弁償を行えるよう条例の改正を行うものでございます。

主な内容は、宿泊料の定額を廃止しまして、名称を宿泊費に改正するとともに、上限を制限して実費支給とします。宿泊費については国家公務員等の旅費の支給規程がございまして、それによる宿泊費の基準額を上限として制限した上で実費を支給するものでございます。

次に、日当を廃止しまして、宿泊手当として宿泊を伴う場合のみ手当を支払うものです。

次に、急行料金等の支給要件の廃止につきましては、これまで距離に応じて急行の料金利用を許可しておりましたが、この距離規程が廃止になります。

次に、包括宿泊費の新設につきましては、包括宿泊費は一般的に宿泊費と交通費がセットとなったパック料金というか、パックと言われておりますが、これまでもパックの利用はしてまいりましたが、例規には定めておりませんでしたので、この改正により明記するものとなっております。

次に、扶養親族移転料の定額を廃止しまして、名称を家族移転料に改正し実費支給とします。引っ越し費用は、時期や場所によって額にかなりの変動がございまして、急激に現在高騰している状況でございます。定額では対応し切れませんので、実費支給に変更するものです。

その他、変更点はありますが、大きくはこの5点が変更となります。

あわせまして、この旅費条例が影響しております4つの条例を改正します。

赤磐市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例、証人等の実費弁償に関する条例、赤磐市長及び副市長の給与等に関する条例及び赤磐市会計年度任用職員の給与等に関する条例、この4点の中へ旅費が規定されておりますので、そこも併せて改正します。

施行日は、令和8年4月1日を予定しております。

資料11ページを御覧いただきまして、次に岡山市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び組合規約の変更について御説明します。

岡山市町村総合事務組合を組織します岡山県中部環境施設組合が、令和8年3月31日付で解散します。この組合は、真庭市と美咲町で組織しておりましたが、美咲町の事業完了により真庭市だけになるということで、一部事務組合を解散するというものでございます。

また、備南競艇事業組合が令和7年4月1日から備南ボートレース事業組合に名称変更したことに伴いまして、岡山市町村総合事務組合の規約を変更するものです。この名称変更は、事業内容を変更するための名称変更ではなく、事業のイメージアップを図るものと伺っております。

総合事務組合の件は以上となります。

次に、11ページ下段、(5)令和7年度赤磐市一般会計補正予算について御説明します。

総務課の補正予算は、人件費に係る補正予算となっております。市長部局及び消防部局の人

事異動や人事院勧告等などによる職員人件費の補正となっております、総額2,980万4,000円の減額を予定しております。

総務課からは以上となります。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 続きまして、くらし安全課の補正予算について御説明をさせていただきます。

先ほど同様、総務部資料の11ページ下段の下側、くらし安全課のところを御覧ください。

くらし安全課では、歳出予算1件を予定しております。こちらは、財産管理費につきまして、FMラジオ山鳥山の中継局における本年度8月に発生した落雷により電波塔内の機器が破損したことによりまして修繕工事を行うものとなっております。このたび400万円の補正を計上させていただいております。

以上で総務部の説明を終わります。

○税務課長（田淵忠則君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 田淵課長。

○税務課長（田淵忠則君） それでは、財務部の資料の3ページをお願いします。

まず、税務課から岡山市町村税整理組合規約の変更に係る許可申請についてになります。

これは、一部事務組合である岡山市町村税整理組合の規約変更を行うのに赤磐市議会の議決を求めるものです。

主な内容になりますが、組合の共同処理する事務に森林環境税に係る徴収金に関する事務を加えることと、新たに井原市が加入することになります。

施行期日は、令和8年4月1日となっております。

それから続きまして、4ページに移ってください。

税務課の補正予算になります。

歳出になりますが、会計年度任用職員の人件費について人事院勧告による給与改定と、それから申告に係る業務を担う会計年度任用職員の増員により158万6,000円増額しています。

また、過年度還付金に係る不足額で250万円の増額を予定しております。

税務課からは以上です。

○財政課長（影山茂樹君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 影山課長。

○財政課長（影山茂樹君） 資料3ページにお戻りください。

令和7年度赤磐市一般会計補正予算（第4号）について財政課分について御説明させていただきます。

歳入として、①財政調整基金繰入金につきましては、今回の補正予算の財源調整のため、②

減債基金繰入金につきましては、公債費元金償還金に充てるため、減債基金繰入金を増額するものです。

金額につきましては、資料記載のとおりです。

財政課分は以上です。

○管財課長（行正 敦君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 行正課長。

○管財課長（行正 敦君） それでは、引き続き資料の3ページ、一番下段を御覧ください。

管財課の歳入でございます。

こちらにつきましては、次の4ページの歳出と関連がありまして、桜が丘いきいき交流センターの運営管理事業の歳出増額に係る財源確保で増額をさせていただいております。

資料の4ページを御覧ください。最上段です。

①桜が丘いきいき交流センター運営管理事業です。

こちらにつきましては、人事院勧告等による給与改定による会計年度任用職員の人件費を増額するものと、照明設備LED化改修工事等に係る経費を計上させていただいております。

金額につきましては、資料記載のとおりとなります。

財務部からは以上となります。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） それでは、消防総務課から御説明させていただきます。

消防本部資料の2ページになります。

地方自治法第180条の規定による市長の専決処分の報告についてです。

令和7年7月22日22時5分、救急車で出勤後、搬送先病院から帰署途中に下市507番地先北側交差点内を直進中に右折してきた軽四自動車と衝突したものです。両車両に乗車していた人に大きなけが等はありませんでした。救急車と相手車両が破損しています。

責任割合は、市が1割で、令和7年10月21日に専決処分を行い、損害額1万2,492円を相手車両の運転手である赤磐市女性に賠償しております。

交差点内での事故ということもあり、危険予測運転を周知し安全確認の徹底に努めてまいります。

続いて、3ページになります。

令和7年度赤磐市一般会計補正予算についてです。

歳入といたしまして、消火栓を新設する工事に係る起債として290万円を増額させていただいております。

歳出では、職員が消防業務に従事する貸与品に係る経費と、住宅用火災警報器設置率向上のため市民に配布する住宅用火災警報器購入に係る経費、これは先ほど総合政策部から御説明の

あった企業版ふるさと納税寄附金を活用したものとなります、合わせて220万7,000円の増額。そして、消防本部の電気料及び水道料不足の68万円を増額計上させていただいています。

簡単ですが、以上、消防本部からの御説明とさせていただきます。

○委員長（安藤利博君） その他について説明が終わりました。

なお、12月議会提出予定議案につきましては、基本的には12月定例会で正式に上程され付託された後の委員会で質疑をお願いしたいと思います。

それでは、ただいまの説明のうち総合政策部への質疑がありましたらお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） それでは、総務部への質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） 次に財務部への質疑はいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） それでは、消防本部への質疑はございませんでしょうか。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 2点教えてください。

まず1点目、先ほどまず事故のほう、双方にけがはなかったという御報告だったと思いますが、その認識でまず間違いなかったか。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） そのように把握しております。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 同じくその関連で、予備車の運用を修理中にされたんだと思いますけど、素人判断でどういう運用をやっとられるか存じませんので、例えばバッテリー上がり等をすぐスムーズな運用に切り替えられたのかどうか、その辺はいかがだったんでしょうか。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 消防車両、現在救急車が5台ございます。そのうちの3台が常時活用している状態で、1車は本署に予備車として設置してあります。もう一車が、車検時、また事故、バッテリー上がり、予測できない事故に対応するような車として配備されています。今回の事故にあっても、その後はその予備車を使用しての救急活動、救急出動といったような形にしております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 先ほど委員長の御説明があったように、予算については12月でということなので、その関連で私が指摘をするまでもなく、ここには殿谷と福田という地名が出ておりますが、消火栓がない、もしくは家が集中している割にはすごく遠いという場所がまだ赤磐市内にあると思うんですけども、そこらについての今後の計画がもしあるのであれば教えていただきたい。

また、できてないということは多分すごく費用がかかるからできてないんだろうなと想像するんですけども、その辺のことを含めて考え方とか計画とかがあったら教えてください。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 消火栓の設置については、主に消防水利の包含率を参考に決定しています。設定基準にあっては、既存の消火栓や防火水槽の有効範囲から外れて、火災時、水量を確保できない消防水利の空白地域となっている防火対象物、建物を包含できるよう最優先としています。

しかしながら、口径が75ミリメートル未満の水道管が布設されている箇所では、十分な水圧、水量を確保できず消火栓としての機能が発揮できないため、残念ながら、設置を見送る場合もございます。

整備にあっては、年度ごとに計画的に進めており、年間2基を目標に設置しています。今年度は、水利空白地域の解消を優先し、熊山地域及び吉井地域に各1基ずつ、計2基を設置いたします。

引き続き、包含地域、こちらを確認しながら市民の安全確保のため、包含されていない地域で水利条件のよい箇所から計画的な整備を進めてまいります。

以上です。

○委員長（安藤利博君） よろしいですか。

○委員（大口浩志君） はい。

○委員長（安藤利博君） ほかに質疑はございませんか。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 先ほどの事故の件で帰られる途中とお聞きしとんですけど、多分岡山市内のほうから帰られるとこだったんでしょうか。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 実際に救急で消防車搬送を岡山市内の病院先から帰署途中の事故と報告を受けております。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 岡山市内だろうなとは思ったんですけど、岡山市内から帰るときには山陽団地の中を通過して帰られるコースなんですか、今回はそのような感じがするんですけど。要は、県道沿いに新下市橋を通らずにそっちを通るのが通常なんですか。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 明確な帰署ルートというのは設けていません。機関員の判断によりどちらを取るかという形になっていると思います。

今回なぜ団地の中を通ったかというのは、ちょっと分かりかねますが、距離の関係であったり、時間の関係であったりということで判断されたものだと認識しております。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 安全とかいろいろ考えたらやっぱり片側2車線道路のほうが何かあったときに問題ないんじゃないかなという気がするんですけど、時間が時間だからどこを通過しても多分すいているとは思うんですけど、ただ通常はどうかかなという、2車線道路を優先するのか、1車線道路を優先するのかと距離的には多分そんなに変わらないと思うんです。そういうことを考えて何か決まりがあるのかなのか、その辺はどうかかというのをちょっとお聞きしたかったんですけど。

○消防総務課長（金光正浩君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金光課長。

○消防総務課長（金光正浩君） 現在のところ、消防本部から大きな道を通りなさいという指示はいたしておりません。現在のところ、機関員の判断、恐らく時間的なことだと思います、そちらで職員が判断してルートを決めているといった感じだと思います。

○委員長（安藤利博君） 大丈夫ですか。

○副委員長（松田 勲君） はい。

○委員長（安藤利博君） そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） 時間がたってますけど、続けてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） その他について執行部から何かありましたらお願いいたします。

○秘書広報課長（黒田未来君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 黒田課長。

○秘書広報課長（黒田未来君） それでは、秘書広報課から1件御報告させていただきます。資料はございません。

8月の委員会で説明しておる件ですが、12月1日から市役所本庁の代表電話に自動音声ガイダンスを導入いたします。音声ガイダンスでの案内は開庁時間のみで、開庁時間以外は、今までどおり、宿日直者が対応いたします。

皆様への周知につきましては、広報あかいわ12月号、ホームページ、LINE等でお知らせさせていただきます。

また、区長、町内会長へのお知らせは、既にさせていただいております。

以上で説明を終わります。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） くらし安全課からも1件、資料はありませんが、桜が丘・可真駐在所の交番化に向けた進捗状況について御報告をさせていただきたいと思っております。

可真駐在所と桜が丘駐在所を統合し交番化を進めておりますが、赤磐警察署より新交番の名称につきまして桜が丘交番に決定され、1月末の完成に向け順調に進んでいるとの報告を受けております。日程どおり、工程どおり進めば、年度内の業務開始も見込まれるという現段階での報告を受けておりますので、御報告をさせていただきます。

以上でくらし安全課からの報告を終わります。

○委員長（安藤利博君） その他について委員から何かございますか。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） その交番の話はいいんですけど、今ある駐在所の跡はどうなるんですか。そのまま置いとくんでしょうか。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 跡地利用の中の現段階の計画、それから廃止時期というものについて供用開始が出来次第、御報告があるものと認識しております。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田委員長。

○副委員長（松田 勲君） 今の駐在所は市の用地でしょうか。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 正盛課長。

○くらし安全課長（正盛充敏君） 桜が丘、可真ともに市の土地だという認識であります。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長、よろしいですか。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 今日も議会報告会があるんですけど、先日桜が丘を傍聴に行かせてもらったときに、市民バスというか、宇野バスの話とかいろいろ出てたんですね。今日せっかく直原主幹来られているんでお聞きしたいんですけど、その話の中で要するに宇野バスはH a r e c aカードしか使えないと、S u i c aとかI C O C Aとかを何で使えないのかとか、使えるようにしてほしいという話がちょっと出てたんですね。

ハレカハーフは今赤磐市で65歳以上の方が半額になる、そういったメリットをやってると思うんですけど、その方は御存じなのかなと思って、もしS u i c aとかだったらできないんですよね。そういったことを分かってないからI C O C AとかS u i c aにしたらどうかと言われると思うんですよね。だから、もうちょっと周知が要るんじゃないかなと。

宇野バスは、私が聞いている中で全国的にも運賃が安いとお聞きしているんですね。そういったいろんな努力をされた中で今運賃を下げられていると思うんですね。そういったことが、桜が丘の方は結構宇野バスを利用されていると思うんですけど、理解されてないんじゃないかな、その方は多分私より年上だったと思うんで、ぜひそういったアピールがまだまだ足りないんじゃないか。そういう意味で、そのアピールも必要なんですけど、広報とかいろんなところでやっていただきたい。

そういった中で、現在65歳で対象となる方がどのくらい登録されているのか、分かれば教えてください。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 幸坂部長。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 直原を御指名なんですけど、直原は担当ではありませんので、私のほうで回答させていただきます。

周知が足りないということでございます。様々な手段を使って周知を進めているところです。

利用者数が今手元にございませんで即答できないんですが、数は順調に増えていると認識しております。今の委員の御指摘を踏まえて、引き続き周知には励んでいきたいと思っております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 数はまた次回でいいんで、教えていただければと思いますけど、要はもっともっと周知していかないと、熊山地域の方は宇野バスを使うことはほとんどないんでそういう意識はないと思うんですけど、桜が丘の方は使われる方が多いと思うんで、その方が知らないというのはちょっといかがなものかなと。

昨日だったかな、S u i c aはいろんなクレジットを使って利用額も増えるとか、いろんな

ことができるように今度なるみたいですけど、そういった意味では確かに便利はいいんですよ。だから、私らも使えたらいいなというのを思ったこともあるんですけど、でもこういった市独自のやり方というんが正直できないと思うし、SuicaとかICOCAとかになると大きいですから、その利用料金というか、経費もかなり必要だというのは認識されてないんだと思うんですね。

だから、そういった意味で宇野バスがいろんな努力をされてやってると思うんで、その辺のことがもう少しアピールされたらいいんじゃないかなと。宇野バスにも一応いろいろお伺いをしながら、それをまた宇野バスもされるでしょうけど、市も宇野バスをもっと利用していただいて便を増やしていただかないといけないんで、ぜひそういったアピールも含めて市の働きかけも必要んじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 総合政策部長。

○委員長（安藤利博君） 幸坂部長。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 宇野バスとは、定期的に情報交換しながら業務は進めさせていただいております。

民間事業者で取り組むことと市で取り組むことといろいろ違いは出てくるかと思いますが、それぞれの利便性というのは併せて市民に周知していくことは必要だと思っておりますので、引き続きPRには励んでいきたいと思っております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） ハレカハーフカードを持ってたら市民バスとか広域バスも半額ですよ。その辺のこともしっかりと市民にもう一回アピールされたほうがいいんじゃないかなと思うんですけど。

○委員長（安藤利博君） 幸坂部長。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 市民バスは半額になります。65歳以上の方は半額になるようになっておりますので、周知は引き続きしっかりとしまりたいと思っております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） ほかに委員からございませんか。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 先ほどの松田副委員長の御意見で執行部に広報しろというのも御無理ごもっともなんですけど、まず一番気になったのが、議会報告会の際に先ほどの松田副委員長のよう説明をどなたか議員が全体に返したのかなというのが正直一番気になりました。我々議員も機会を捉まえて、執行部だけにやれやれと言うんではなくて、広報マンとして、特に市民と接することが議員は多いでしょうから、そういう意識を持っていただけたらということをやっと前段として今お話を聞いて、まだ議会報告会は続きますので、先ほどのような答弁を私

もし言われたらできたらなと感じながら本題に入ります。

先ほどの第2期赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証についてという説明との関連ではないんですけど、私を感じるのに、例えば予算から入札もしくは事業の実施までのリードタイムがすごく長過ぎるんじゃないのかなと。物によっては時間がないので初日の議決をくださいというものなんかは多分すぐ動いておられると思うんですけど、仮に現状、予算決定から入札、事業実施までに半年間かかっておるのであれば、ここらへも目標が設定されとるように、例えば半年のものを3か月に縮めていくとか、そういうような目標設定とかはされないんでしょうか。

というのが、新聞報道でいろんなことが先に出ると、もうあしたからでもするんかというような意識で待ち望んでおられる施策については住民の方々はそのように思われるので、できれば予算決定から事業実施までのリードタイムの評価項目、このまち・ひと・しごとには属さないかもしれませんが、いろんな評価をされておるとは思いますけども、その中に入れていただく、もしくは今あるんでしたらちょっと認識不足なんですけど、そういうお考えはございませんか。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 幸坂部長。

○総合政策部長（幸坂諭志君） 非常に難しい御質問でございますが、全体的な総合計画の評価項目に設定するのはなかなか難しいものかなと思っております。といいますのも、個々の事業において事業実施というのはタイミングがあると思っております。例えば、令和7年度予算を編成した段階でこの事業をいつやるのかというのは、それぞれの事業によって異なるものでもございます。土木工事であれば早期発注ということが目標として掲げられておりますので、なかなか全体としてリードタイムの目標を設定するというのは難しいのかなとは思っておりますが、委員言われることはもっともだと思いますので、個々の事業においてきちっとそういったスケジュールを立てて実施していくということは大事なことだと思っておりますので、そのような姿勢で臨みたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（安藤利博君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 何とか多分取り組みますというような御答弁に受け取っというて、市民から動きが早くなったなという声は何年か後には聞こえるようなことを期待しておきます。よろしく願いいたします。

○委員長（安藤利博君） J R熊山駅の改修について、これまとめて部長説明いただいたんですけど、その他のところだったんですけど、こちらについては質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） そのほかございませんか。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 今日は議会報告会があるんでちょっと確認をしたいんですけど、この前も傍聴したら同じように話が出てきたんで、言える範囲で今の進捗状況、新拠点の中で、一応この前は聞いているんですけど、現在において今後の計画も含めて我々が報告会でしゃべってもいい範囲を、総合政策部として話をまとめて教えていただければと思います。

○総合政策部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 岡本参与。

○総合政策部参与（岡本和典君） 先般の議会全員協議会で御説明をさせていただいたところから大きな進捗はございません。開発事業者であります赤磐総合開発と市で定例の会議を持っております。その中で企業誘致の進捗状況についてもお伺いしているところでございますが、ナカシマヘルスフォースにつきましては、かなり工期といたしますか、造成の工期のことについても細かな打合せが行われてるということでございますので、正式決定に至っておりませんけれども、かなり前向きに話が進んでいるという認識でございます。

もう一つのコストコにつきましては、まだ双方から出る出ないということで正式な回答は得ていないということでお聞きしております。いつ頃までに回答を求めるんでしょうかということについても市からお尋ねはしておりますけれども、まだそこについても正式にいつまでということでは決めてはいないということでございます。

そのほかのエリアにつきましても、企業誘致はされてるということで聞いておりますが、まだ確定情報ではないので公表できる段階にはありませんということですが、誘致は引き続き進められておるところです。

それから、9月から造成工事は始まっておりますので、順次ダンプで土が運び込まれているという状況でございます。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 今埋立てが始まっとんですけど、これは基本的にはナカシマの部分だけでしょうか。それ以外もでしょうか。

○総合政策部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 岡本参与。

○総合政策部参与（岡本和典君） 造成は開発エリアの全体が行われますが、今はナカシマのほうのスケジュール優先ということで西側、一番最西端といたしますか、そちら側から埋立てを優先的に行っているという、これが3月末までにそのエリアの造成を行いたいということで進捗といたしますか、聞いております。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 今埋立てはナカシマを優先ということで、道の駅も含めて蜂谷工業が全部埋めていかれる予定ですか。

○総合政策部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 岡本参与。

○総合政策部参与（岡本和典君） あくまでも、蜂谷工業は赤磐総合開発からの受注を請けられてということですので、道路岩田長尾線よりも西側の民間が開発されるエリアということでございます。

公共ゾーンについては、まだその後大きな進捗はございません。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 傍聴で聞いてあれだったんですけど、ナカシマが急いでいらっしゃるのは何周年記念のことで、それをあそこでやりたいからということが前面に何かこの前ある議員が言われておりましたけど、それは本当ですか。

○総合政策部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 岡本参与。

○総合政策部参与（岡本和典君） 創立100周年記念の年に当たるということで、その事業ということもあって事業開始を急いでおられるということで聞いております。

以上です。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 財務部長にお聞きしたいんですけど、財政が厳しい厳しいという、この前の説明もございましたけど、健全化比率を見るとそんなに大きく変わってないと思うんですが、実際問題厳しいんですか。そんなに変わったんでしょうか、状況が。

○財務部長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金島部長。

○財務部長（金島正樹君） 先般、議会全員協議会でも説明をさせていただきました。要するに、財政調整基金の話が一番したかったということで、今の状況で置いていったら数年先には財政調整基金がなくなっていくということで、厳しいというのが赤磐市としては裕福ではないということを議員方にもお伝えしたかったということでございます。

以上でございます。

○副委員長（松田 勲君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 松田副委員長。

○副委員長（松田 勲君） 先日、視察で笠岡市に行かせていただいて、笠岡市は昔から市で赤磐市よりもかなり大きな、人口もたしか6万人以上だったと思うんですけど、今は赤磐市とほとんど変わらない状況になって、昔から合併もしてないですから基金もそんなになかった、

もともとなかったんですよね。ところが、昨今の状況で人口減少もあるし、そういったことでこれじゃいけないということで何かいろいろ財政を見直しして、今財政を健全化されてる途中と聞いているんです。財政調整基金が10億円を目指すとか言って、何かもう本当に少ないんですよ、目指すのがそこなのかという。

それに比べて、赤磐市はそんなことはないと思うんですけど、今までも厳しいと言われながらもいろいろ調整されて積んでこられたと思うんです。だから、それがこのまま何もせんかったら確かに枯渇していくんだと思うんですけど、今までも積んできた経緯がありますよね。特例債のあれも積んだということもありますし、だからなぜ今そんなに酸っぱく言われるのかというのがよく分からないんですけど、どういった意味で言われておるのか。

この前の説明は、はっきり言うて我々議員に言うにはちょっと乏しいような材料の内容でしたけど、実際どうなんでしょうか。

○財務部長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（安藤利博君） 金島部長。

○財務部長（金島正樹君） この前の説明に至っては申し訳なく思っております。反省しております。

それで、なぜ厳しい状況かというのは、財政において一番収支のバランスなんですけど、現在物価高等によって資材費、それから人件費なりがかなり上がってきております。そういったことで、支出の面はかなり増額しております。

ただ、収入の面ですね、受益者負担、使用料、そういった歳入で確保できる面が合併当初からほとんど変わっていない状況でございます。そういった歳入確保にもいろいろ努めていかないといけないということもありまして、財政状況が厳しいというお話をさせていただいております。

それから、未利用の施設、そういったものも結構かなりあつたりします。そういったところの今後の活用をどうしていくか、廃止等を踏まえて検討なりをしていかないといけないと思っております。

以上でございます。

○委員長（安藤利博君） よろしいですか。

○副委員長（松田 勲君） はい。

○委員長（安藤利博君） そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（安藤利博君） ないようですので、以上をもちまして総務常任委員会を閉会いたします。

午前11時32分 閉会